学校卒業後における障害者の学びの支援事業
「令和4年度 障害者の学び」研修会

障害者の生涯学習について現状と課題

令和4年12月8日

文部科学省
総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室
阿部　圭但

障害者の生涯を通じた学習活動の充実に向けた取組

現状と課題

〔学校卒業後の状況〕

特別支援学校卒業生の**約92%**は就職又は障害福祉サービス（就労移行支援・就労継続支援）に進む。
（特別支援学校卒業生　約２万人／年）

◆障害者雇用等による就職　30.1%
◆障害福祉サービス　60.3%

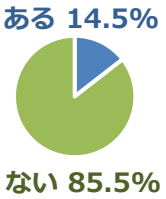
高等教育機関への**進学率**は**約2.2%**
特に、卒業生のおよそ９割を占める知的障害者は**約0.5%**に留まる。

令和２年度調査

〔地方公共団体等の状況〕

学校卒業後の障害者の生涯学習に関する組織がある。
都道府県 5.7%
市区町村 4.1%

公民館等が障害者の学習活動の支援に関わった経験がある。



公民館：全国約13,000か所に設置され、地域住民に最も身近な社会教育施設

平成30年度調査

〔障害当事者の声（アンケート調査）〕

「障害者の学習機会が充実されることは重要だと思う」 **81.1%**
「生涯学習の機会が身近にある」 **34.3%**
「一緒に学習する友人、仲間がいる」 **28.3%**

平成30年度調査

社会情勢の変化

平成26年 「障害者権利条約」批准
→障害者の生涯学習機会の確保が明記

平成28年 「障害者差別解消法」施行
→国・地方公共団体の合理的配慮の義務化

平成30年　障害者基本計画（第４次） 及び第３期教育振興基本計画 策定
→基本的施策として「学校卒業後の障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実」を位置付け

令和元年　視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律
→読書することのできる環境の整備

「学校卒業後の学びや交流の場がなくなるのではないか」 当時の文部科学大臣（松野大臣）が特別支援学校訪問時に保護者から聞いた不安の声

推進体制の構築

国

平成29年４月、大臣メッセージ『**特別支援教育の生涯学習化に向けて**』を発出するとともに、総合教育政策局（当時の生涯学習政策局）に、障害者の生涯学習政策を総合的に推進する**「障害者学習支援推進室」**を新設。

地方公共団体

都道府県、市区町村に「障害者学習支援担当」窓口設置を依頼。
「障害者の生涯学習の推進方策について（通知）」発出（令和元年7月）

推進方策の検討

学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議

『障害者の生涯学習の推進方策について（報告）』（平成31年3月）

目指す社会のあり方
○誰もが、障害の有無にかかわらず**共に学び、生きる共生社会**の実現
○障害者の**主体的な学び**の重視、個性や得意分野を生かした社会参加の実現

各障害種の課題や対応、各主体の施策方針を明確化

【 表彰式の様子（令和2年度）】

どのような表彰ですか？

障害者の生涯を通じた多様な学習を支える活動を行う個人又は団体について、活動内容が優れているものを文部科学大臣が表彰します。

優れている活動を事例集として公表し、障害当事者や地方公共団体等に広く周知することで、障害者の生涯学習支援の推進を図ります。

「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

過去の表彰の様子、事例集はこちら

「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰は平成29年度から実施しており、これまで323件の個人・団体が表彰されています。

都道府県・指定都市、大学、文部科学省の関係団体等から推薦された候補者について、審査委員会の審査を経て表彰対象者を選定しています。

学習、スポーツ、文化芸術、情報保障など
活動内容は多岐にわたる

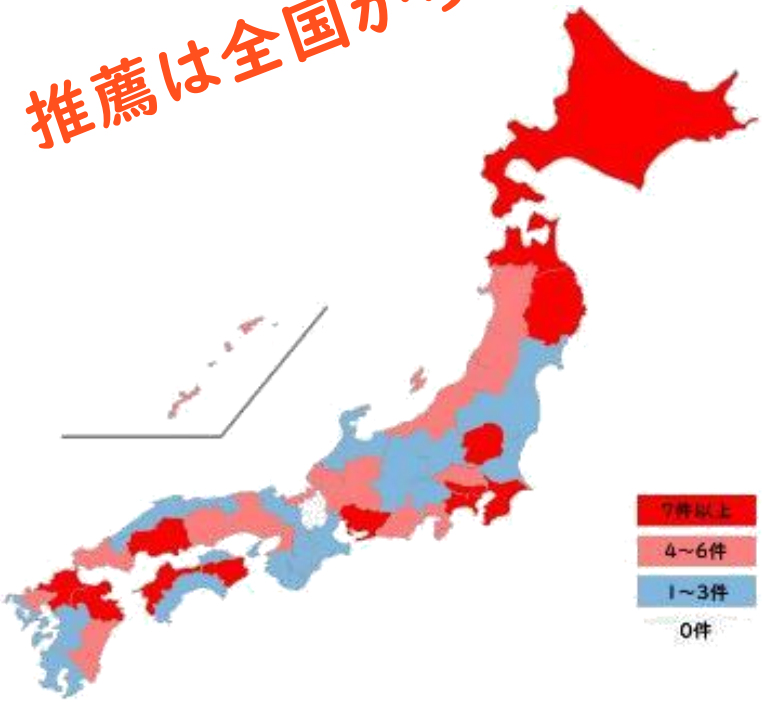
障害者の
生涯学習支援活動とは？

6年間で…

379件

【 表彰式での成果発表の様子（令和元年度）】

推薦は全国から！



一緒に学ぼう，遊ぼう，みんなの「学び舎」で！

奨励者

■ 活動地

千葉県我孫子市

■ 団体名・氏名

学び舎コホミン

（我孫子市湖北地区公民館）

■ 基本データ

継続年数	2年
活動分野	学習　スポーツ　文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	特別支援学校　大学　行政（その他）
団体の規模等	指導者15名 受講者20名 大学生15名

活動の概要

特別支援学校等の卒業生を対象に、多岐にわたる生涯学習講座を２か月に１回以上の頻度で実施しており、障害者の生涯学習の機会を多く創出し、継続的な学びに高い成果を上げている。「学び舎コホミン運営協議会」が事業の企画、公民館職員が各講座の運営、大学生が障害者への支援を行うことで持続可能な仕組みを構築している。

■ 活動内容

地域の公民館が、特別支援学校等の卒業生の学びや仲間づくりができる居場所になることを目指して取り組んでいるのが「学び舎コホミン」です。自然体験学習、パラスポーツ、落語や音楽鑑賞など、いろいろな内容の講座を開催しています。

令和２年9月に、5名の受講者が参加してリズム遊びを行うことからスタートしました。令和3年度からは活動を広げ、クッキー作り、ゴールボールなどのパラスポーツやダンス、リズム遊び、落語や音楽鑑賞等も行っています。受講者も次第に増え20名前後が毎回参加するようになりました。土曜日の午前中に開催していること、受講者が興味のある活動を選べることはもちろん、川村学園女子大学の学生がともに活動しながら支援にあたっていることが、受講者の励みになっているようです。毎回の活動後には、学生とともにスタッフが振り返りを行い、よりよい支援や運営のために意見を出し合っています。

写真１　手賀沼公園での紙飛行機飛ばしの様子

写真２　パラスポーツのチーム活動の様子

■ 活動の経緯・体制

「卒業生が社会に出ても学び続け、仲間づくりのできる居場所を作りたい」という千葉県立湖北特別支援学校の提案をもとに、我孫子市湖北地区公民館、川村学園女子大学の近隣の３者連携による「学び舎コホミン」が令和2年に誕生しました。毎年の講座は3者の代表からなる「学び舎コホミン運営協議会」が企画しています。

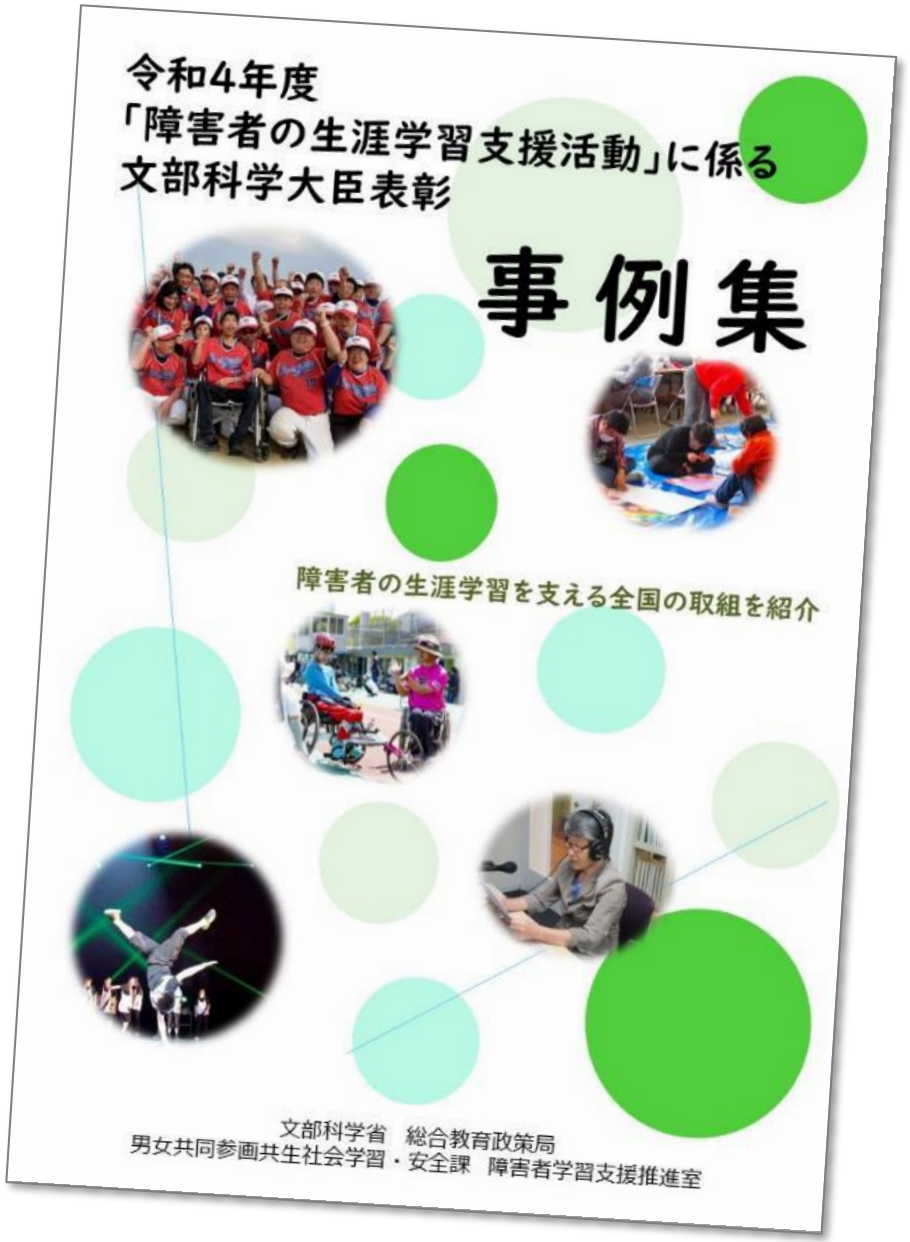
■ 活動の効果・普及状況

湖北特別支援学校の卒業式の際に、卒業生全員に「学び舎コホミン」のチラシを配付したり、湖北地区公民館のホームページに掲載したりしてより多くの方々に知ってもらえるようにしています。

毎年、受講者が少しずつ増え、現在は常時20名前後が受講しています。

■ その他（団体紹介やホームページのＵＲＬ等）

http://abikokohoku-kouminkan.jp/



障害者の生涯学習　検索

特別支援学校高等部学習指導要領等における生涯学習に関する主な記載事項

学習指導要領（平成31年2月公示）

第1章　総則

第2節　教育課程の編成

第5款　生徒の調和的な発達の支援

1　生徒の調和的な発達を支える指導の充実

（5）生徒が、学校教育を通じて身に付けた知識及び技能を活用し、もてる能力を最大限伸ばすことができるよう、生涯学習への意欲を高めるとともに、社会教育その他様々な学習機会に関する情報の提供に努めること。また、生涯を通じてスポーツや文化芸術活動に親しみ、豊かな生活を営むことができるよう、地域のスポーツ団体、文化芸術団体及び障害者福祉団体等と連携し、多様なスポーツや文化芸術活動を体験することができるよう配慮すること。

学習指導要領解説

（5）生涯学習への意欲の向上（第1章第2節第5款の1の（5））

本項は、障害者のライフステージ全体を豊かなものとするためには、障害のある生徒に対して学校教育段階から将来を見据えた教育活動の充実を図ることを示している。

人が豊かな人生を送っていこうとすれば、単に生活が保障され、仕事により賃金を得て、社会における役割を果たしていくのみならず、学習、文化、スポーツといった生涯にわたる学習や体験の中から生き甲斐を見つけ、人と繋がっていくことが必要となってくる。

そのため学校教育においては、卒業後の生活において、進路に関する指導だけではなく、スポーツ活動や文化活動などを含め、障害のある生徒が、自己実現を図るための生涯にわたる学習活動全般を楽しむことができるよう、第2章以下に示す各教科・科目等又は各教科等の指導や、第1章第2節第3款の1の（6）及び第5款の1の（3）、第6款の1の（3）に示されていることを踏まえ、在学中から地域における活動に参加し、楽しむ態度を養うとともに、そのために必要な行政や民間による支援について学ぶなど、卒業後においても様々な活動に積極的に参加できるよう、生涯学習への意欲を高めることが重要である。

障害のある生徒が、学校卒業後も必要な支援を受けながら豊かな生活を送るためには、特別支援学校と、企業や障害者福祉施設等、高等教育機関といった卒業後の進路先とが、密接な連携を図ることが不可欠である。

引き続き、特別支援学校の場においても、学校教育のみならず、社会教育、文化及びスポーツといった、就労や日常生活の時間とは異なる、生涯を通じて人々の心のつながりや相互に理解しあえる活動の機会が提供されるような機能が総合的に発揮されるようにすることも大切である。

障害者の生涯学習啓発リーフレット「【わかりやすい版】だれでもいつでも学べる社会へ ～障害のある・なしに関係なく共に学べる生涯学習について～」

趣旨・ねらい

- ✓ 障害のある・なしに関係なく、学校卒業後も学び続けることができる「生涯学習」について、特別支援学校等の生徒を主な対象に想定したリーフレット。
- ✓ 学校の授業や卒業生の同窓会等で、学校卒業後の学びの場の紹介や自分がチャレンジしたい生涯学習について考えるきっかけとして活用・配布していただくことを期待。

構成内容

- ✓ 全16ページ構成のリーフレットの主な内容は以下の通り。
- ✓ P3～6：学校卒業後の障害のある人を対象として実施されている生涯学習の事例を掲載。公民館などの地域の社会教育施設や大学で学べる活動を紹介。
- ✓ P7～10：ワークシートになっており、得意なこと、好きなこと、将来の夢を考えることを通じて、卒業してからやりたい生涯学習を考えてみることを目的としている。
- ✓ P11、12：国、関係機関など社会全体が、障害のある人の生涯学習を応援していることを伝える。

配布方法

- ✓ 文部科学省ホームページからダウンロード可能➡

授業などで使用したい場合は、文部科学省障害者学習支援推進室までご連絡ください。製本されたリーフレットをお送りさせていただきます。

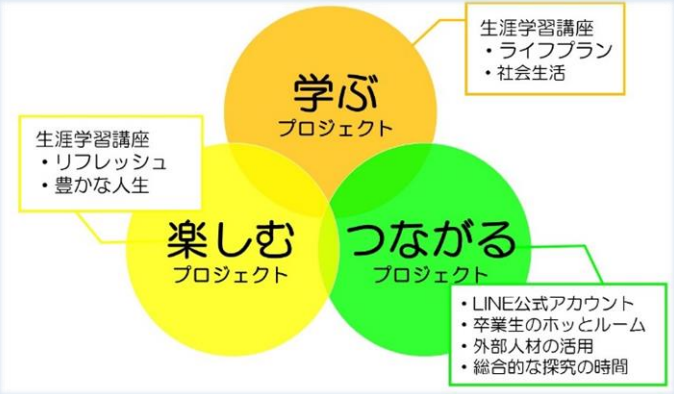
【本リーフレット掲載URL】
https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00601.html

市川大野高等学園　生涯学習講座を実施し、持続可能な支援モデルを検討・実践している取組

平成３０年度から令和２年度までの３年間、千葉県教育委員会より研究指定を受け「障害者の生涯学習支援」をテーマに研究実践。
目的：学校卒業後の障害者が社会で自立して生きる上で必要な学びや支援を明らかにし、具体的なプログラムや支援体制について考察する。

①卒業生、②卒業生の保護者、③卒業生を雇用している企業や在校生の実習を受け入れている企業、④本校教職員にアンケート調査を実施し、調査から明らかになったニーズをもとに３つのプロジェクトを作成した。

３年間で「学ぶ」プロジェクトは２回、「楽しむ」プロジェクトは８回、生涯学習講座として実施した。「つながる」プロジェクトでは、家庭や職場以外の居場所をつくることで、職場で安定して働き、自立した生活ができると考え、相談支援や情報提供を行った。



１年生から３年生まで、総合的な探究の時間に生涯学習の単元を設定し、授業の導入でリーフレットを活用し、生涯学習の概要を学んだ。

冊子の情報に加えて、生涯学習講座や本校の同窓会活動、近隣公民館での活動を紹介した。

「自分の生涯学習」「なりたい自分実現プラン」というテーマで調べ学習や発表を行うことで、自分の居住地にある地域資源が分かり、より具体的なイメージをもつことができた。

「学ぶ」プロジェクト

「学ぶ」プロジェクト、「楽しむ」プロジェクトとして、生涯学習講座を開催しています。

講師は地域にお住まいの“その道のプロ”！
本校の卒業生に限らず、在校生、地域の方も御参加できます。

「支援を受けながら暮らすとは」

動画配信「障害年金ってなに？

「楽しむ」プロジェクト

「シッティングバレー」

「ゴールボール」

「グラウンドゴルフ」

「紅茶の世界」

「いきいきテニス」

「リンパdeデトックス」

動画配信「自宅でセルフケア」

「つながる」プロジェクト

卒業生や在校生に生涯学習に関する情報を提供し、地域と「つながる」ための取組を実施しています。

「学校ホームページ」
「LINE公式アカウント」
本校の生涯学習講座に関する情報を提供しています。

「卒業生のホッとルーム」
休日のすごし方がわからない…
同じ趣味をもつ仲間とつながりたい！など
卒業後の学び、余暇についての相談に応じます。

持続可能な取組にするために…

●コミュニティ・スクール

学校運営協議会の中に生涯学習部会を設置し、生涯学習支援の企画や運営について議論する場を確保する。

●学校支援サポーター

生涯学習講座の講師や運営の人材を確保するため、学校支援サポーターの運用を始めた。

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園

- 千葉県市川市にある県立特別支援学校
- 知的障害のある生徒を対象とした専門学科を置く高等部単独校
- 専門学科として園芸技術科、工業技術科、生活デザイン科、流通サービス科の４つがあり、各学科24名、１学年96名の定員である。
- 卒業生の約８割は障害者雇用で企業就労する。

学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究

令和4年度予算額　134百万円
（前年度予算額　116百万円）

文部科学省

事業内容

1．地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究

（1）地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築

◆**都道府県（指定都市）が中心**となり、**大学や特別支援学校、社会福祉法人、地元企業等**が参画する障害者の生涯学習のための**「地域コンソーシアム」**を形成し、支援体制を構築。

(1)都道府県レベルのネットワーク構築　(2)(3)地域レベルの学習機会拡充

（2）地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進

◆**市区町村**が実績のある**民間団体等と組織的に連携**し、主に**公民館等の社会教育施設における**、障害当事者のニーズや地域資源等を踏まえた**生涯学習プログラム**を開発・実施

（3）大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築

◆**社会への移行期における知的障害者等を対象とした学びのモデル**を大学・専門学校等が開発・実施

2．生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究

H29　基礎データ（都道府県、市町村、特別支援学校）
H30　基礎データ（障害者本人、公民館・生涯学習センター）
R元　社会教育施設の合理的配慮
R2　大学等の生涯学習プログラム
R3　重度重複障害児・者のまなび

成果や課題を共有

3．障害者の生涯学習に関する連絡会議の開催、普及・啓発や人材育成に向けた取組

◆有識者を含めた連絡会議
◆ブロック別コンファレンス（実践研究集会）
◆障害理解啓発フォーラム

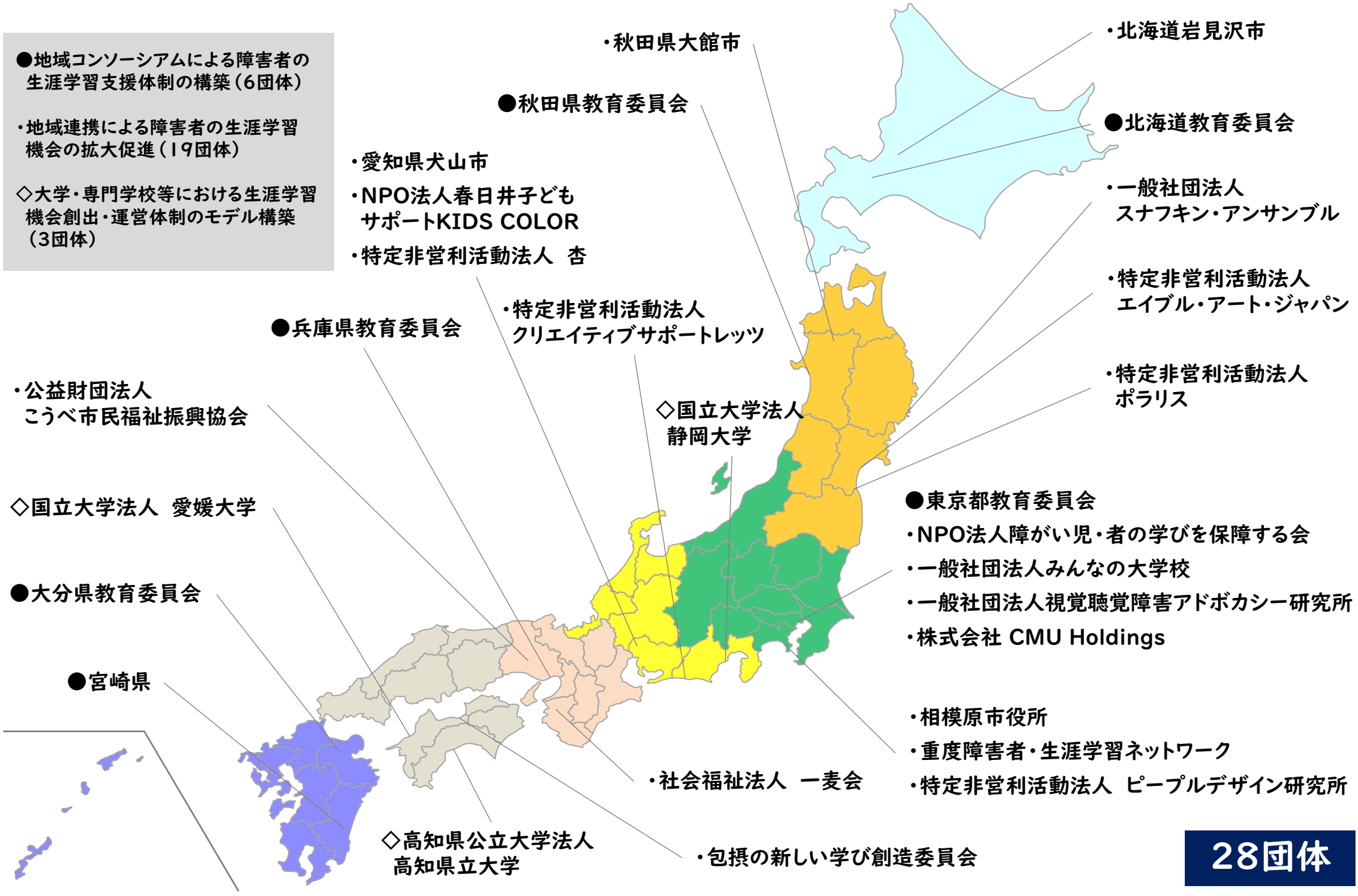
◎各地域で障害者の**社会参加と活躍を推進**　◎地域における**支援人材の増加と障害への理解を増進**

令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

●地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築（6団体）

・地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進（19団体）

◇大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築（3団体）



・秋田県大館市

●秋田県教育委員会

・愛知県犬山市

・NPO法人春日井子ども サポートKIDS COLOR

・特定非営利活動法人　杏

●兵庫県教育委員会

・特定非営利活動法人 クリエイティブサポートレッツ

・公益財団法人 こうべ市民福祉振興協会

◇国立大学法人 静岡大学

◇国立大学法人　愛媛大学

●大分県教育委員会

●宮崎県

・社会福祉法人　一麦会

◇高知県公立大学法人 高知県立大学

・包摂の新しい学び創造委員会

・北海道岩見沢市

●北海道教育委員会

・一般社団法人 スナフキン・アンサンブル

・特定非営利活動法人 エイブル・アート・ジャパン

・特定非営利活動法人 ポラリス

●東京都教育委員会

・NPO法人障がい児・者の学びを保障する会

・一般社団法人みんなの大学校

・一般社団法人視覚聴覚障害アドボカシー研究所

・株式会社 CMU Holdings

・相模原市役所

・重度障害者・生涯学習ネットワーク

・特定非営利活動法人　ピープルデザイン研究所

28団体

令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」
実施主体別一覧

都道府県
北海道教育委員会
秋田県教育委員会
東京都教育委員会
兵庫県教育委員会
大分県教育委員会
宮崎県

市区町村
北海道岩見沢市
秋田県大館市
相模原市役所
愛知県犬山市

国立大学法人　静岡大学
国立大学法人　愛媛大学
高知県公立大学法人　高知県立大学

社会福祉法人　一麦会

公益財団法人　こうべ市民福祉振興協会

株式会社 CMU Holdings

NPO法人
特定非営利活動法人　エイブル・アート・ジャパン
特定非営利化†駆動法人　ポラリス
NPO法人障がい児・者の学びを保障する会
特定非営利活動法人　ピープルデザイン研究所
特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ
NPO法人春日井子どもサポートKIDS COLOR
特定非営利活動法人　杏

任意団体
重度障害者・生涯学習ネットワーク
包摂の新しい学び創造委員会

一般社団法人　スナフキン・アンサンブル
一般社団法人　みんなの大学校
一般社団法人　視覚聴覚障害アドボカシー研究所

主な対象とする障害種は団体によって異なるが、
知的障害、発達障害、肢体不自由、視覚障害、
聴覚障害など様々な障害種を対象とする団体も多い。

令和４年度　地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築　取組概要

大分県教育委員会（所在地：大分県）

事業名　生涯を通じた障がい者の学び支援事業

事業の趣旨・目的

・障がいがある方の学校卒業後の学びに関する実態やニーズを把握し、「居場所」や「学びの場」づくりに生かす。
・大学や社会教育関係施設で講座を開設する。
・障がい者の生涯学習に関する情報をあつめたサイトやリーフレットの制作により、情報へアクセスしやすい仕組をつくる。

事業実施体制・連携先

※コーディネーターは大分県教育庁社会教育課
・大分大学　・大分県立大分支援学校　・大分大学教育学部附属特別支援学校
・大分県社会福祉協議会　・大分県障害者社会参加推進センター
・社会福祉法人「太陽の家」　・芸術文化・スポーツ団体　・当事者団体
・企業　・行政（大分市・別府市教委、県特別支援教育課、県障害者社会参加推進室）

事業内容

Ⅰ　地域連携コンソーシアム会議の実施
関係機関のネットワーク化により、障がい者の学びに関する情報・課題の共有を図る　年４回実施予定

Ⅱ　調査研究
障がい者の学校卒業後の学びの実態やニーズに関して調査し、分析結果を各取組に生かすことを目的とする。

Ⅲ　実践研究
①大分大学による公開講座（主に知的障がいがある方向け）実施
②社会教育関係施設での障がい者向け講座の実施
③特別支援学校における生徒および保護者に対する啓発・体験活動の実施

Ⅳ　普及啓発
①行政職員を対象とした研修の実施
②広域コンファレンスの開催による、情報共有と成果普及
③障がい者の生涯学習に関する情報発信

今年度の取組状況

Ⅰ地域連携コンソーシアム会議
第１回コンソーシアム…令和４年６月２８日実施
○情報交換 ○今年度の事業および取組についての説明○調査項目についての討議

Ⅱ調査研究
９月　調査実施（調査票は①当事者②家族・職員・支援者③生涯学習担当課④社会教育関係施設　の４種類）、
１１月　結果報告

Ⅲ実践研究
左記①②③ともに１０月以降に実施予定
(10/１香々地青少年の家ワンデイキャンプ、10/4モデル公民館支援者養成講座等)

Ⅳ普及啓発
①第１回公民館テーマ別研修　7/16秋田県能代市中央公民館より講師招へい
第２回公民館テーマ別研修　9/16兵庫県朝来市より講師招へい（オンライン）
②九州・沖縄ブロックコンファレンス
③情報サイト「かたろうえ大分」、リーフレット作成予定

←↑第１回コンソーシアムの様子

↑ＨＰのトップページ

その他研究の詳細など

障がい者の生涯学習に関する情報サイト「かたろうえ大分」
→（９月末オープン予定）

大分県生涯学習情報システム「まなびの広場おおいた」：https://www.manabi-iota.jp
大分県教育庁社会教育課ＨＰ：https://www.pref.iota.jp/site/syakaikyoiku

かたろうえ大分

障がいがある方の「学びたい！」「仲間と楽しく交流したい！」
という願いを叶える様々なイベントや団体情報を載せているサイトです。
「かたろうえ」には、「語ろうよ」と「かたろうよ（参加しようよ）」
の２つの意味をこめています。

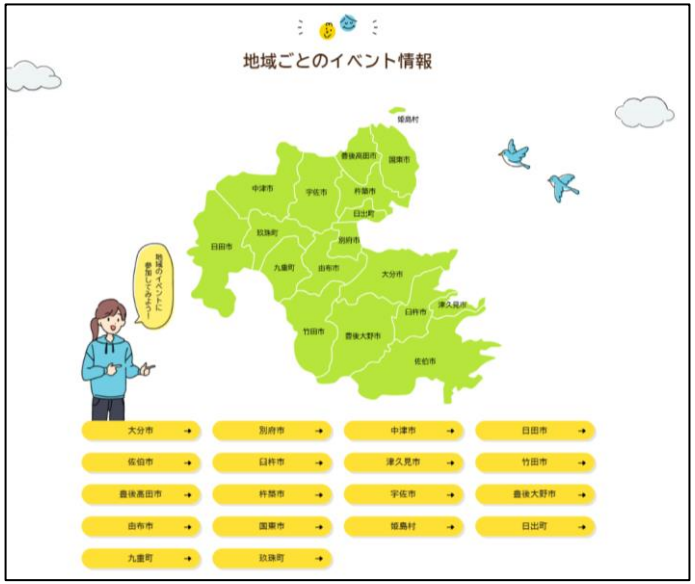
運営は大分県教育委員会が行っています。

お知らせ

NEW 11月18日
大分大学生涯学習講座が開講しました！ →

NEW 11月18日
第2回ネットワンごちゃ混ぜサッカー大会　with　大分大学サッカー部・大分トリニータ　イベント情報掲載しました。 →

11月10日
『生涯を通じた障がい者の学びの支援モデル公民館委託事業』ひょうたんカレッジを開講しました！ →



レッツダンスでガッツ元気の会

その他

- 所在地 … 事務局所在地 大分市羽屋新町3丁目1-2-804号
- 連絡先 … E-mail:rirarira1001@gmailcom
  LINE:
  TEL:090-9810-3713

ひとり一人が精いっぱい頑張れ、元気になれる雰囲気を創出することを考えながら指導しております。

ヨカたの（余暇を楽しく過ごそう）

スポーツ・健康　アート・音楽　その他

- 連絡先 … TEL：080-8106-1969
  E-mail：yokatano2@icloud.com（事務局）

休みの日に家でじっとゲームばかりしているなんてつまらない。
私たちと一緒に楽しい時間を過ごしましょう！

アート・音楽　中津市
令和5年2月9日～令和5年2月20日（予定） →
第４回中津市障がい者アート作品展

スポーツ・健康　大分市
令和5年2月4日（土）開催予定 →
第16回大分市手をつなぐ育成会ボウリング大会

その他　大分市
令和5年1月9日（月）開催予定 →
第44回大分市手をつなぐ育成会20歳の記念祝賀会

スポーツ・健康　大分市
令和4年１２月１８日（日） →
『 ユニバーサルスポーツフェスティバル 』　In新生支援学校 ～　スクエアステップ・オーバーボール・卓球バレー　～

アート・音楽　別府市
募集期間：10月3日（月）～21日（金）
開催期間：12月1日（木）～9日（金）10:00～19:00（最終日は15:00まで） →
別府市アール・ブリュットの芽ばえ展　（令和４年度開催と作品募集のご案内）

スポーツ・健康　中津市
令和4年11月20日（日） →
第7回中津市ユニバーサルボタリング大会

スポーツ・健康　大分市
令和4年度11月19日（土）、11月20日（日） →
大分国際車いすマラソン

スポーツ・健康　大分市
開催日：令和４年１２月３日
時　間：１５：００～１６：３０（受付開始１４：３０） →
第２回ネットワンごちゃ混ぜサッカー大会　with　大分大学体育会サッカー部・大分トリニータ

スポーツ・健康　大分市
・１１月１０日（木）、１１日（金）１８：００～１９：３０
・１２日（土）１３：００～１４：３０
・１３日（日）１０：３０～１２：００（リハーサル）
　　１３：００～１３：３０（本番） →
公募型舞台芸術ワークショップ

アート・音楽　大分市
令和4年11月9日（水）～11月20日（日）10:00～18:00 →
第27回ときめき作品展　（障がいのある人による芸術展）

令和４年度　地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進　取組概要

重度障害者・生涯学習ネットワーク（所在地：神奈川県）

事業名　『重度医療的ケア者対象の訪問型生涯学習支援』に向けた実践研究

主な連携先　神奈川県教育委員会、特別支援学校校長会、大学（田園調布学園大学、鎌倉女子大学）等

主な対象　重症心身障害者・医療的ケア者

事業の趣旨・目的

重症心身障害者・医療的ケア者対象の訪問型生涯学習支援「訪問カレッジ」を持続可能な制度にすることを目的に、「①訪問型生涯学習支援プログラム開発　②人材育成　③運営・地域連携　④理解啓発」の4つの項目で実践研究を行う。

事業実施体制

・重度障害者・生涯学習ネットワーク：訪問型生涯学習支援に取り組む12団体（大学、NPO、一般社団法人等）で組織。
・連携協議会：神奈川県内の教育（教育委員会、特別支援学校、大学）、福祉、学生保護者、先行自治体（東京都日野市、新宿区）

学習プログラムの内容

１．学習プログラムの類型
・学習方法による類型：①家庭や病院･施設へ訪問による学習支援　②集合形式による学習（スクーリング）
・学生の実態による分類：①重症心身障害者向けプログラム　②重度身体障害者向けプログラム）

２．学習内容
・教科学習（文学、歴史、科学、音楽、体育、外国語等）
・美術制作・創作活動　・職業・社会参加（新聞・HP作成、外出等）

今年度の取組状況

①訪問型生涯学習支援プログラム開発：各会員団体による「訪問カレッジ」の実践の蓄積をもとに、学習プログラムを類型化して効果的な学習プログラムの提供を行う。
②人材育成：学習支援員の拡大に向けた大学生や市民に対する講座開設等を行う。
③運営・地域連携：財政的な課題と解決策に向けた自治体との連携の在り方を検討し、他の自治体に参考になるモデルを提案。
④理解啓発：地域資源の活用やフォーラムを通じて訪問型生涯学習に対する理解啓発プログラムとしてまとめる。

学習の様子（眼鏡型アイトラッカー、大学生との交流）　連携協議会

その他研究の詳細など

訪問カレッジ「学びの実り　アート＆ミュージックミュージアム
～医療的ケアの必要な重度障がい者の学びの成果を発表する文化祭～」開催
期日：令和4年11月25日（金）～27日（日）
会場：パシフィコ横浜　ノース２F　ガーデンラウンジB・A
※オンライン参加可能　９月に案内予定

★委託事業における取組の広がりの一例

（都道府県 → 市）	北海道 → 岩見沢市、秋田県 → 大館市
（都道府県 → 県）	宮崎県 → 大分県、秋田県 → 東北の某県
（都道府県 → 大学）	兵庫県 → 神戸大学
（医療法人→都道府県）	医療法人稲生会 → 北海道
（市 → 都道府県）	町田市、国分寺市 → 東京都
（市 → 市）	春日井市 → 瀬戸市、犬山市

学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業

令和5年度要求・要望額　142百万円
（前年度予算額　134百万円）

文部科学省

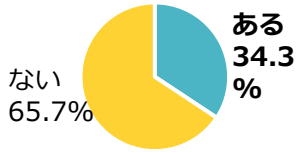
「障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会」の実現に向け、障害者の持続的な**学びの基盤**を整備

施策の方向性

- **○地方公共団体における実施体制・連携体制の構築**
  社会的包摂や共生社会の推進等の活動に取り組む民間団体等と幅広に連携
- **○障害者の生涯学習推進を担う人材の育成・確保**
  専門性を身に付けたコーディネーターを社会教育関係職員等を対象とした研修で養成
- **○多様な実施主体による障害者の学びの推進**
  公民館等の社会教育施設等や大学、NPO等による学習機会の提供

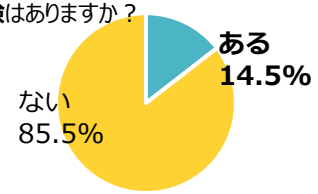
人材を育成し、体制を整備しつつ、学習プログラム等の開発が必要

身近に**生涯学習の機会**はありますか？



※平成30年度 学校卒業後の学習活動に関する障害者本人等へのアンケート調査

障害者の学習活動支援に**関わった経験**はありますか？



※平成30年度 障害者の生涯を通じた学習活動支援に係る実態に関するアンケート調査（**公民館等**）

事業内容

1．地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究〔116百万円〕委託事業

（1）地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築（体制整備と人材育成等）〔70百万円〕

R2開始

都道府県レベルのネットワーク構築

都道府県と大学等との連携による体制整備・人材育成　（10箇所）

都道府県（指定都市）が中心となり、大学や特別支援学校、社会福祉法人、地元企業等が参画する障害者の生涯学習のための地域コンソーシアムを形成し、支援体制を構築する。
学びの場の拡大に向けて**市区町村職員等向けの人材育成研修**モデル等を開発・実証する。

（2）地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進（学習プログラム開発）〔37百万円〕

R3開始

地域レベルの学習機会拡充

市区町村による障害者を包摂する学習プログラムの開発（30箇所）

障害者の生涯学習のノウハウが乏しい市区町村が、実績ある民間団体等と組織的に連携し、主に公民館等の社会教育施設における、障害当事者のニーズや地域資源等を踏まえた、ICT等の活用や多様な体験活動を含む包摂的な生涯学習プログラムを開発・実施し、その横展開を目指す。

（3）大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築（高等教育機関におけるモデル構築）〔9百万円〕

拡充　R4開始

新たな学びの場の創出

社会への移行期における知的障害者等を対象とした学びのモデル構築（2→6箇所）

入学者選抜や様々な要因等での進学が困難な障害者（特に知的障害者）が、特別支援学校高等部等を卒業後も学び続けることができる生涯学習プログラムを大学・専門学校等が開発・実施する。

1000校を超える全国の国立・公立・私立大学、短期大学のうち、これまでに**知的障害者を対象としたオープンカレッジ・公開講座を実施した大学等は42校**であり、その25%は現在は実施していない。
※令和２年度 大学等が開講する知的障害者を対象とした生涯学習プログラムに関する調査

2．生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究〔3百万円〕委託事業

3．自治体の主体的な取組の促進と人材育成に向けた普及・啓発〔22百万円〕

新規〔2百万円〕
◆アドバイザー派遣
連携強化、ネットワーク構築に関する技術的支援等

◆コンファレンス（実践研究集会）の実施
研究成果の普及や実践交流等

◆フォーラムの実施
障害当事者等の参画も得て障害理解啓発

◆連携会議の設置
ネットワーク化の推進等

３．自治体の主体的な取組の促進と人材育成に向けた普及・啓発〔22百万円〕

新規〔2百万円〕 **◆アドバイザー派遣**
連携強化、ネットワーク構築に関する技術的支援等

アドバイザーの役割は？

→ 新たに取組を始めようとする市区町村や団体等を対象に、様々な助言や技術的支援を行います。
→ 新たに取組を始めた市区町村や団体等に、事業推進のための助言や技術的支援を行います。

助言や技術的支援とは？

→ 障害者の生涯学習に関する域内の好事例や、全国の先進事例を紹介します。
→ 障害者の生涯学習を支えるための連携強化やネットワーク構築の方法について一緒に考えます。
→ 対象地域・団体の強みや課題を分析し、取り組みやすい内容や手法について一緒に考えます。
→ 持続可能な体制構築や人材育成、普及・啓発の方法について一緒に考えます。

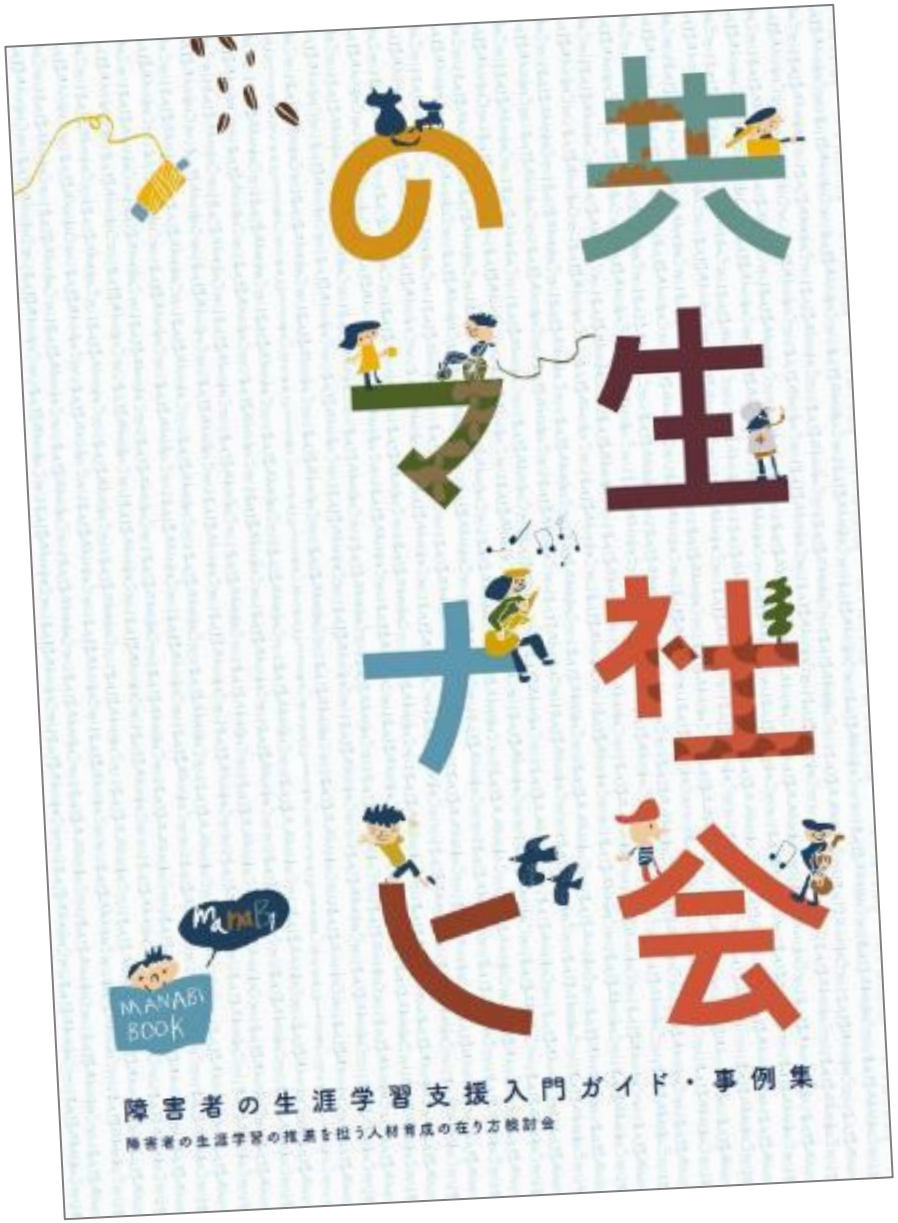
アドバイザーはどんな人？

→ 障害者の学習支援に長年取り組んでいる方
→ 大学等の有識者
→ これまで先進的な取組を行ってきた事業受託団体のコーディネーター等

アドバイザー派遣の回数や頻度は？

→ 延べ36回の派遣を想定しています。
→ 新たに事業を始める市区町村や団体等の都合や体制整備の進捗状況にもよりますが、
1箇所につき年間3～6回程度の助言や技術的支援を行います。

障害者の生涯学習の推進を担う人材育成の在り方検討会
障害者の生涯学習支援入門ガイド「事例集 「共生社会のマナビ」



検討会議では、人材育成の在り方の議論と並行して、知的障害者を対象とした実践事 例を中心に実施主体ごとに整理し、Q&Aなども加え、障害者の生涯学習の取り組みを実施する際の ポイントやヒントなどを盛り込んだ事例集をとりまとめました（令和4年3月）。

本事例集は、主に地方自治体で社会教育や生涯学習を担当されている方、特別支援学校や大学などの学校教育の分野、あるいは障害福 祉の分野で学びの場づくりに取り組みたいと考えている方など、実際に取り組みを企画・運営する立場から、本当に知りたい内容を意識し、作成しています。

※文科省HPよりダウンロードできます

共に学び、生きる共生社会コンファレンス

趣旨

平成２６年の障害者権利条約の批准や平成２８年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び生きる共生社会の実現に向けて、**障害者の生涯学習の機会を全国的に整備・充実する**ことが急務である。

そこで、令和元年度より**障害者の生涯学習活動の関係者が集う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を全国ブロック別に開催**し、障害者本人による学びの成果発表等や、学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議等を行う。障害の社会モデルに基づく**障害理解の促進**や、支援者同士の学び合いによる**学びの場の担い手の育成**、**障害者の学びの場の充実**を目指す。

参加者

○150～300名程度を想定　　○障害者本人、学びの支援者・関係者、障害者の学びに関心のある人など

⇒都道府県・市町村職員（障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等）、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障害者の学習支援実践者（NPO等）、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等。

コンファレンス実施内容

例１　障害者の学びのニーズや学びの成果としての社会参加機会の創出に向けて、障害者本人による学びの成果発表や思いの表現等の機会を設定

例２　障害者の学びの場の担い手を育成するための優れた実践事例の発表や、ワークショップ等の実施

例３　各テーマ（学びの場の類型、障害種、実施主体等）ごとの分科会の開催、関係者のネットワーク構築に資する交流機会を設定

誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会の実現

コンファレンス（Conference）

会議、協議会
関係者間で共有する問題について協議すること

【概要映像】令和3年度
関東甲信越ブロックの様子

【記録映像】令和3年度
中国・四国ブロックの様子

令和4年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」 開催概要

開催日	実施団体等	テーマ等	開催方法等
R4.8.24	秋田県教育委員会 【県内コンファレンス】	取組紹介「“やってみたい”“学びたい”気持ちを引き出す私たちの取組」 講演「障害者の学びと楽しみの場を地域に広げ、続けていくために」	オンライン
R4.11.4	東京都教育委員会 【関東甲信越コンファレンス】	“豊かに生きる”ための生涯学習	ハイブリッド 「超福祉の学校」内
R4.11.25	兵庫県教育委員会 【近畿ブロックA】	This is me！ ～誰もが幸せに暮らせる社会をめざして～	神戸大学と県内サテライト会場を接続
R4.12.7	社会福祉法人一麦会 【近畿ブロックB】	学び合う　そして　創り合う	ハイブリッド
R4.12.17	NPO法人春日井子どもサポートKIDS　COLOR 【東海北陸ブロックA】	地域共生社会を目指す障害者の生涯学習プログラム開発・推進コンファレンス in 春日井	ハイブリッド 文化フォーラム春日井
R5.1.14	特定非営利活動法人杏 【東海北陸ブロックB】	地域における障害者の生涯学習プログラム開発・推進コンファレンス in 瀬戸	瀬戸蔵
R5.1.21	宮崎県 【県内コンファレンス】	つながる！ ～共に学び、共に生きる社会を目指して～	オンライン
R5.1.21	特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ 【東海北陸ブロックC】	調整中	ハイブリッド 浜松市福祉交流センター
R5.2.4	大分県教育委員会 【九州沖縄ブロック】	調整中	別府市中央公民館
R5.2.4	北海道教育委員会 【北海道ブロック】	調整中	ハイブリッド検討
R5.2.12	特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 【東北ブロック】	調整中	ハイブリッド 仙台メディアテーク7F
R4.12～ R5.2（仮）	国立大学法人　愛媛大学 【中国四国ブロック】	まるのつどい　～やがて来る新しい時代の学び！ 障がい者の生涯を通じた新しい学びの場づくり～	ハイフレックス